

小松SSHだより

石川県立小松高等学校

第1号 R8年5月
編集 :SSH推進委員会
発行責任者 :馬場 智子

「社会の変化に対応し、自ら問いを立て、科学的手法で検証し、
課題解決に向けて粘り強く取り組み、社会に貢献することができる人材」の育成

失敗を糧に「粘り強く」問い続ける —— 先導的改革という新たなステージへ

本校は令和8年度より、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）「先導的改革Ⅰ期」に指定されました。平成18年度から続く20年以上の取組は、これからさらに広がり、新たな段階へ進んでいきます。本校が大切にしているのは、自ら問いを見つけ、科学的に考えながら粘り強く挑戦する力です。失敗を振り返り、次につなげる姿勢こそが探究の土台となります。探究をより豊かにするため、地域の小中学校や企業、大学と協力する場として「こまつ研究共創プラットフォーム」を整備します。この仕組みを通して、小松から未来の科学技術を担う人材を育てていきます。未知の世界へ踏み出す皆さんの挑戦を、学校全体で支えていきます。

●令和8年度SSH事業予定●

●課題探究Ⅰ（理数科1年生）

様々な分野の実験を中心とした学習により探究スキルを育成します。テーマ発表会や指導教員による指導・助言を受けて、課題研究を開始します。



●理数探究基礎（普通科1年生）

1学期はデータサイエンス講座を行います。2学期は実験から得られたデータを使って分析方法を学びます。3学期はグループに分かれて、今まで学んだ知識を生かして基礎課題研究に取り組み、ポスター発表を行います。



●課題探究Ⅱ（理数科2年生）

大学の先生のアドバイスを受け、少人数グループによる課題研究を行います。そしてその成果を、校内及び校外で口頭発表、ポスター発表を行います。また、大学・企業との効果的な連携方法を模索します。



●課題探究（普通科2年生）

通常授業や「探究基礎」で育成された課題発見能力、探究スキルを用いて課題を設定し、課題研究を行います。また、クラス内発表会、校内発表会を行い発表能力を育成します。



●課題探究Ⅲ（理数科3年生）

科目融合、領域融合型の発展的な内容を学習し、少人数グループでの探究活動を通してデータ処理能力、問題解決能力の向上を目指します。現実の課題を解決するプロセスを経験することで、大学での学びにつなげていきます。



●科学探究（普通科3年生）

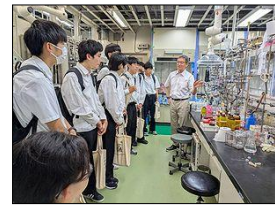
発展的な実験活動を通して、データ処理能力、問題解決能力を身につけます。さらに、科目融合、領域融合型の学習を行い、科目の枠にとらわれず各々の領域の知識を柔軟に関連づけ、探究力の向上を目指します。



校外学習予定

●関東サイエンスツアー（理数科１年生）

日 時： ６月１１日（木）～１２日（金）
場 所： 東京大学、東京科学大学
内 容： 最先端の科学研究に触れ、技術者や研究者と接することで見識を深めます。



●生物・地学分野の野外実習（理数科１年生）

日 時： ７月１３日（月）～１４日（火）
場 所： 加賀市方面
内 容： ウニの発生実験、露頭観察、植物生育調査などを行います。



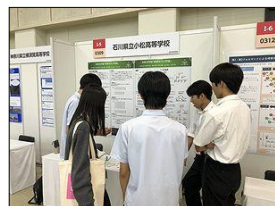
●実験セミナー（韓国大田科学高校との科学交流①）（理数科２年生）

日 時： ７月２８日（火）～２９日（水）
場 所： 石川県立小松高等学校
内 容： 北陸先端科学技術大学院大学の先生に指導していただき、実験セミナーを行います。
来日した韓国大田科学高校の生徒も、一緒にセミナーを行います。



●全国SSH生徒研究発表会（理数科３年生課題研究代表１グループ）

日 時： ８月５日（水）～６日（木）
場 所： 神戸国際展示場
内 容： 全国のSSH校が一同に集まり研究発表会を行います。



●課題探究Ⅰ 校外学習（理数科１年生）

日 時： ９月２５日（金）
場 所： 金沢工業大学革新複合材料研究開発センター、石川樹脂工業（株）
内 容： 実際にものづくりの現場を体験し、ものづくりに対する理解を深めます。



●韓国科学交流（韓国大田科学高校との科学交流②）（理数科２年生の希望者）

日 時： １２月２１日（月）～２４日（木）
場 所： 韓国大田科学高校、韓国科学技術院他
内 容： 大田科学高校を訪問し、課題研究のポスター発表（英語）を行うなど、大田科学高校の生徒と交流を深めます。



「探究」という終わりのない旅に向けて

粘り強く取り組もうとする生徒たちの姿から、考え続ける力や課題に向き合う姿勢が涵養されていることを感じています。今年度からは「先導的改革型」として新たな指定を受け、これまでの探究活動を「究める探究みらいパッケージ」として発展させ、地域や全国へ広げていきます。探究で身につく「問いを立て、自分を客観的に見つめる力」は、将来どの道に進んでも大きな支えになるはずです。

日頃より本校の活動を支えてくださる大学、企業、そして地域の皆様に深く感謝申し上げます。これからも「こまつ研究共創プラットフォーム」を拠点に、未来を支える科学技術人材の育成に取り組んでまいります。